

環境大臣 山本公一 殿
東京都知事 小池百合子 殿
御蔵島村長 広瀬久雄 殿

日本鳥学会鳥類保護委員会
委員長 佐藤重穂

伊豆諸島御蔵島の世界最大のオオミズナギドリ集団繁殖地の保全を求める要望書

東京都伊豆諸島の御蔵島には、オオミズナギドリの世界最大の集団繁殖地があります。オオミズナギドリは、東アジアのみで繁殖する海鳥ですが、繁殖鳥の最大で 8 割もの個体が御蔵島に集中して繁殖することが知られていました。御蔵島のオオミズナギドリの集団繁殖地のうち、南斜面は鳥獣保護管理法に基づき、東京都により鳥獣保護区に指定され、さらにその中心部は特別保護地区にも指定されています。また、御蔵島は富士箱根伊豆国立公園内に位置し、ほぼ全島が自然公園法による特別保護地区または第 1 種から第 3 種の特別地域に指定されています。このほか、御蔵島自然保護条例をはじめとする村や都の条例や要綱を含め、各種法令や行政の取組が、村民の方々の理解と相まって、海洋島の生物多様性と特色ある生態系を保全する上で、重要な役割を果たしてきました。特にオオミズナギドリの繁殖地を守るために、御蔵島の村民の方々が外来性肉食哺乳類を島から極力排除してこられたことには敬意を表するものであります。

しかし近年、人が持ち込んだネコ（標準和名イエネコ）が山中に入り、人間の管理を離れたノネコとして代を重ね、その数は 520 頭とも推計されています。そしてこれらのノネコが、低い見積もりでも毎年約 2 万羽のオオミズナギドリを捕食していると推計されています。東京都が生息数推定調査した 1978 年には 175～350 万羽だったオオミズナギドリの繁殖集団は、環境省の定点調査が始まった 2007 年には 100 万羽と、わずか 30 年間で 43～71%も減少し、その 5 年後の 2012 年も激減傾向が続き、改善回復が見られないことが示されました（文献 1,2,3 による）。現状のまま推移すれば集団絶滅が 30 年後と推定されています。

御蔵島におけるオオミズナギドリの集団繁殖地を保全するために、以下の事項を要望します。

1. 御蔵島のオオミズナギドリの集団繁殖地を保全するために、環境省、東京都、御蔵島の三者で連携して検討し、繁殖環境を保全・回復するための措置をとること。
2. 御蔵島において、生物多様性保全国家戦略で位置づけられる外来生物対策として、ノネコなどの侵略的外来生物の捕獲排除を行うこと。
3. 御蔵島鳥獣保護区の指定要件をオオミズナギドリの集団繁殖地として、鳥獣保護区域および鳥獣保護区特別保護地区の拡大を図ること。また、御蔵島鳥獣保護区を都指定から国指定に指定替えすることの必要性について検討すること。

文献 1. 東京都（1980）オオミズナギドリ調査報告書. 東京都（労働経済局），東京.

文献 2. 環境省（2008）平成 19 年度重要生態系監視地域モニタリング推進事業
（モニタリングサイト 1000）海鳥調査業務報告書. 環境省自然環境局生物多様性センター.
http://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/reports/pdf/h19_seabirds.pdf

文献 3. 環境省（2013）平成 24 年度モニタリングサイト 1000 海鳥調査業務報告書.
環境省自然環境局生物多様性センター.
http://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/reports/pdf/h24_seabirds.pdf

添付資料： 伊豆諸島御蔵島の世界最大のオオミズナギドリ集団繁殖地の保全を求める要望書の背景説明

伊豆諸島御蔵島の世界最大のオオミズナギドリ集団繁殖地の

保全を求める要望書の背景説明

御蔵島（面積約 20km²、人口約 300 人）は伊豆諸島に位置し（図 1）、自然公園法でほぼ全島が特別保護地区、第 1 種、第 2 種、第 3 種特別地域に指定され（図 2）、一部は東京都鳥獣保護区に指定されてきた（図 3）。照葉樹林の巨木密度が日本で最も高く、長く黒潮域の代表的な海洋島に位置づけられ、生物多様性と特徴ある動物相が維持されてきた。

この御蔵島で繁殖する外洋性海鳥オオミズナギドリ（ミズナギドリ目ミズナギドリ科、東アジア固有繁殖種、体重約 0.5kg、全長約 50cm）（写真 1）は、世界の全繁殖集団の最大 8 割にもあたるとみられてきた（引用 1、2）。

本種は同じミズナギドリ目に属するアホウドリ類同様に、繁殖開始齢が 5～8 歳ときわめて遅く、繁殖期間が毎年約 9 ヶ月を要し、産卵数は年 1 卵のみの、鳥類中もっとも少産型動物なために、いったん生息数が減るとその回復が極めて難しい特徴を持つ海鳥である。肉食性哺乳類がもともと不在な島で進化したため、彼らへの防御形質を獲得していない。そのため外来の肉食哺乳類が島に侵入すると、大きな脅威になることが予想されてきた（引用 3～6）。

近年、御蔵島に持ち込まれていた飼い猫（標準和名イエネコ、中東を起源とする外来ネコ）が野放しのまま山中で繁殖を繰り返してノネコとして増殖し、御蔵島の野生動物相へ大きな脅威をもたらすまでに至った。とりわけオオミズナギドリへの捕殺被害は大きく（写真 2）、オオミズナギドリの生息数の急減を引き起こす一大要因になってきた。ノネコは少なくとも約 520 頭の生息が予想されており、これらのノネコが低い見積もりでも毎年約 2 万羽のオオミズナギドリ（とりわけ成鳥・亜成鳥）を捕食していると推計されている（引用 7～9）。

東京都が生息数推定調査した 1978 年には 175～350 万羽だったオオミズナギドリの繁殖集団は、環境省の定点観測が始まった 2007 年には 101 万羽と、わずか 30 年間で 43～71%も減少し、その 5 年後の 2012 年も激減傾向が続いており、回復が見られない（図 5）。現状のまま推移すれば集団絶滅が 30 年以内と推定される状況にある（引用 5）。

急減中のオオミズナギドリだけでなく、世界で御蔵島と神津島の 2 島のみで局在する世界的希少種ミクラミヤクワガタにもノネコの食害が確認されており、1 個のネコ糞に 3 頭の頭部を含む 7 頭分の残滓が含まれる事例も報じられている（引用 10）。さらに天然記念物や絶滅危惧種のアカコッコ、モスケミソサザイ、オーストンヤマガラや、カラスバトなどの島嶼固有の鳥類への捕食圧も大きいことが強く懸

念される。オオミズナギドリ以外でも、同島の繁殖集団が絶滅する生物種が出る
ことが憂慮される。

現在、御蔵島において、村民の方々、鳥類研究者、獣医師などの島の内外の有志
が御蔵島村役場と協働してノネコ対策を実施しているが（引用 11、12；参照 web 資
料 1、2）、ノネコは島の森林内の至る所に生息しており（引用 13）、山岳島の地形
から箱ワナでの捕獲の徹底が難しく、さらにノネコの増殖速度が極めて速いため、
このままの状態が続くとノネコのさらなる増加が懸念されるに至った。

ノネコは高い増殖率（交尾排卵で受精率が極めて高く、1 歳以下からの若齢繁殖、
1 腹 4-6 頭出産で、年複数回繁殖）と高い狩猟能力を有し、世界の多くの島嶼で鳥
類や小動物を減少、絶滅させている。そのため世界自然保護連合（IUCN、本部スイ
ス、日本は IUCN 日本委員会に政府として加盟）や日本生態学会（国内最大の生物系学
会、2015 年時の学会員数 3794 名）でも、ノネコを「世界の侵略的外来種ワースト 100」
に指定している。世界各国の多くの島嶼でノネコ対策が総合的に進められ、ノネコ
の排除に成功した島では、固有動物などの個体数が顕著に回復する成果が挙がっ
ている（引用 14、15 他）。

《引用文献》

引用 1. 岡 奈理子 (2004) オオミズナギドリの繁殖島と繁殖個体数規模、および海域、表層水
温との関係. 山階鳥類学雑誌 35:164-188.

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jyio2003/35/2/35_2_164/_pdf

引用 2. 岡 奈理子 (2016) 海鳥の巨大コロニーの成立と存続条件－御蔵島のオオミズナギドリ
繁殖集団の栄枯盛衰－. 月刊海洋 48:454－459.

引用 3. 岡 奈理子 (2014) オオミズナギドリ. Bird Research News 11(10): 2-3.

http://www.bird-research.jp/1_newsletter/dl/BRNewsVol11No10.pdf

引用 4. 岡 奈理子・金井 裕 「島の鳥類とネコ問題」. 日本鳥学会 2016 年度大会自由集会 講
演要旨集:274.(同年 9 月 16－19 日 北大札幌キャンパス)

引用 5. 岡 奈理子・山本麻希 (2016) 日本有数のオオミズナギドリ繁殖島とネコ問題の取組み
月刊海洋 48:405-408.

引用 6. Genovesi, P and Carnevali, L. (2011) Invasive alien species on European islands:
eradications and priorities for future work. Pages 56-62 In: Veitch, CR *et al.* (eds.), Island
invasive: eradication and management. IUCN, Switzerland.

http://www.issg.org/pdf/publications/island_invasives/pdfhqprint/1genovesieurope.pdf

引用 7. Oka, N. (2015) Clear and present threat by feral cats to the world largest pelagic bird
population in Mikura Island, Japan. The Vth International Wildlife Management Conference,
Sapporo. 26 - 30 July, 2015.

引用 8. 岡 奈理子 (2015) 御蔵島のノネコ問題. (野生生物とネコ問題セッション共同企画、
および発表). 第 21 回「野生生物と社会」学会沖縄大会プログラム・講演要旨集:26. (同年 11
月 21-25 日. 琉球大学)

引用 9. 岡 奈理子 (2016) ノネコの捕食圧に直面する世界最大オオミズナギドリ御蔵島繁殖集団.

富士箱根伊豆国立公園指定 80 周年式典併設ホール・ポスター発表. 2016 年 3 月 6 日、静岡県沼津市ふじのくに千本松フォーラム コンベンションホール.

引用 10. 荒谷邦雄・細谷忠嗣 (2014) 伊豆諸島の魅力を探る〜クワガタムシ科を題材に〜. 昆虫と自然 49(3): 口絵図6-8、本文10-17頁.

引用 11. 岡 奈理子 (2015) オオミズナギドリと島の生態系の保全活動. 山階鳥研ニュース 259:2.

http://www.yamashina.or.jp/hp/kenkyu_chosa/nonekosatooya_project.html#hozenkatsudo

引用 12. 岡 奈理子 (2015) ノネコのいない島づくり事始め—御蔵島の自然生態系の回復を願って—.

御蔵島観光協会ニュースレター・いるかないいか 76:2.

引用 13. 小木万布 (2016) ねこかむ速報. 御蔵島観光協会ニュースレター・いるかないいか 85:2-4.

引用 14. Nogales, M. *et al.* (2004) A review of feral cat eradication on islands. *Conservation Biology* 18: 310-319. http://bio.research.ucsc.edu/people/croll/pdf/Nogales_2004.pdf

引用 15. Ratcliffe, N. *et al.* (2009) The eradication of feral cats from Ascension Island and its subsequent recolonization by seabirds. *Fauna & Flora International, Oryx*, 44(1): 20–29.

http://www.seaturtle.org/PDF/RatcliffeN_2010_Oryx.pdf

《参照web資料》

参照 web 資料 1. 東京新聞 2016 年 2 月 3 日版と Web 版

<http://www.tokyo-np.co.jp/article/metropolitan/list/201602/CK2016020302000193.html>

参照web資料2. 朝日新聞2015年12月13日日曜版

<http://www.asahi.com/articles/ASHCZ4JB6HCZUTIL01H.html>

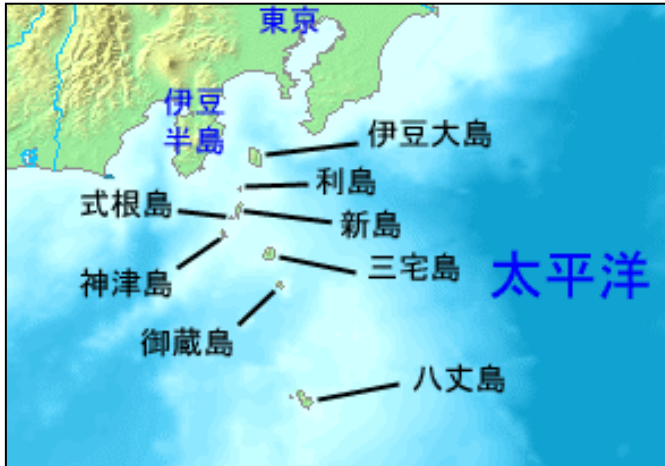
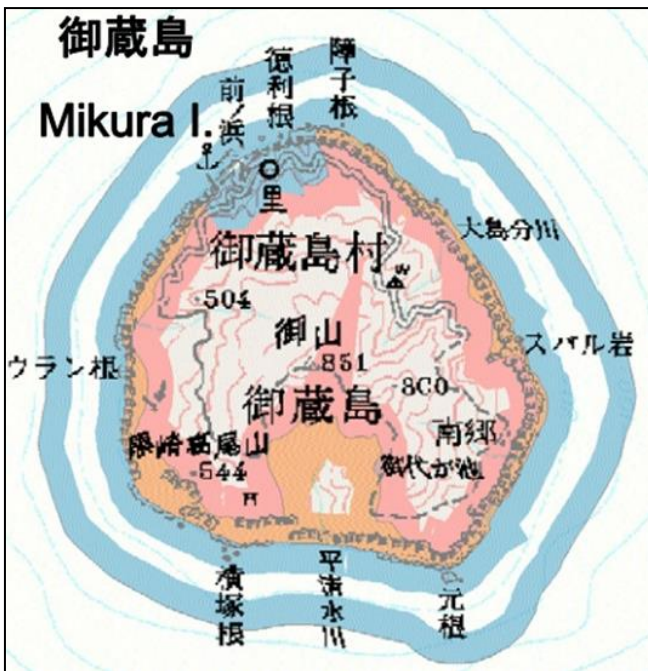


図1. 御蔵島の位置
(出典サイト)

https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%A4%E3%83%AB:Izu_islands.png



地図凡例

	特別保護地区 Special Protection Zones
	特別地域 Special Zones
	海中公園地区 Marine park Zones
	普通地域 Ordinary Zones

図2. 御蔵島の国立公園 (富士箱根伊豆国立公園)に関するエリア区分

(出典サイト)

http://www.env.go.jp/park/fujihakone/intro/files/area_3.pdf



地図凡例

特別保護地区	
鳥獣保護区	
特別保護指定区域	
特定猟具使用禁止区域(銃器)	
自然公園特別保護地区	
国立公園・国定公園	

図 3. 御蔵島の鳥獣保護区に関するエリア区分
(出典サイト)

https://www.kankyo.metro.tokyo.jp/nature/animals_plants/attachement/hunter_map2015_2.pdf



図 4. 御蔵島のオオミズナギドリの繁殖地 (黒枠内のエリア)
(出典地図 に岡 奈理子加筆)

出典：<http://maps.gsi.go.jp/>

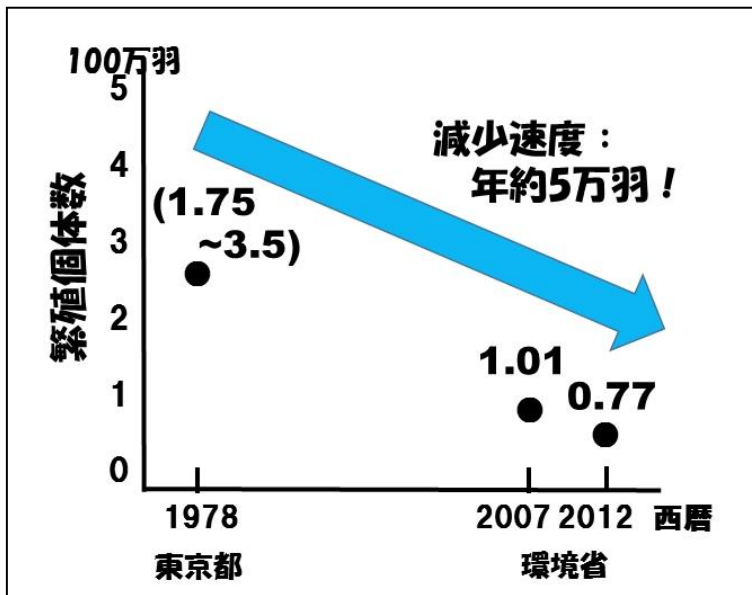


図5 御蔵島のオオミズナギドリ繁殖集団の35年間の変化
(東京都・環境省の調査に基づく)

《図5 生息数の根拠資料》

東京都 (1980) オオミズナギドリ調査報告書. 東京都(労働経済局), 東京.

環境省 (2008) 平成19年度重要生態系監視地域モニタリング推進事業(モニタリングサイト1000)海鳥調査業務報告書. 環境省自然環境局生物多様性センター.

http://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/reports/pdf/h19_seabirds.pdf

環境省 (2013) 平成24年度モニタリングサイト1000 海鳥調査業務報告書. 環境省自然環境局生物多様性センター. http://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/reports/pdf/h24_seabirds.pdf



写真1 御蔵島のオオミズナギドリ成鳥 (撮影 岡奈理子)



写真2 御蔵島の集団繁殖地で数多く見られるオオミズナギドリの死体
と羽毛が混じる猫糞 (撮影 岡 奈理子・広瀬節良)